

2014年3月期 決算説明資料



KANEMATSU CORPORATION

2014年5月15日

1. 2014年3月期決算概要 及び 2015年3月期見通し	...	3
2. 中期経営計画の進捗	...	11
3. VISION-130	...	15
4. Appendix	...	27
5. 補足資料	...	31

1

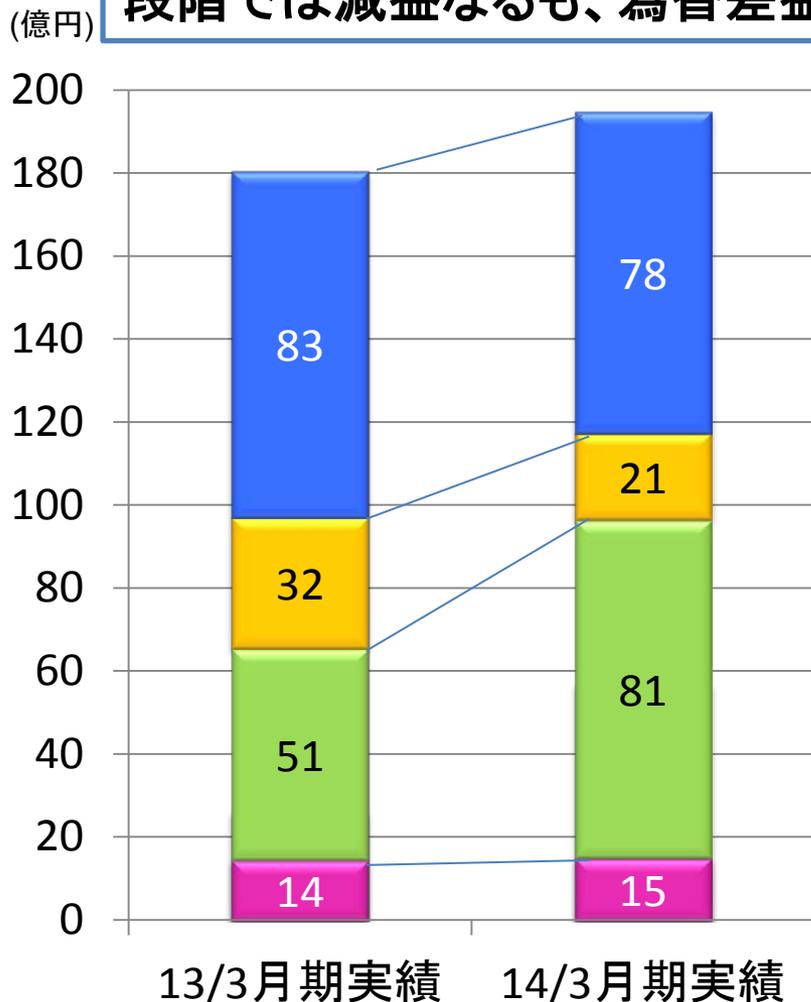
2014年3月期決算概要 及び 2015年3月期見通し

2014年3月期実績 P/L

主に鉄鋼・素材・プラントセグメントが牽引し、増収・営業利益増益。営業外収支の良化等もあり、経常利益増益。当期純利益も増益。

(単位: 億円)	13/3月期	14/3月期	前期比増減	増減率
売上高	10,192	11,145	953	9.4%
売上総利益	800	864	64	8.0%
営業利益	183	198	15	8.3%
経常利益	167	202	35	20.7%
当期純利益	96	118	22	23.4%
1株当たり 当期純利益	22円80銭	28円09銭	5円29銭	-

鉄鋼・素材・プラントセグメントは大幅に増益。食料セグメントは営業利益段階では減益なるも、為替差益で経常利益段階では増益。



- 電子・デバイス(前期比 ▲6億円)**
 電子機器・材料事業と半導体関連事業は堅調。モバイルソリューション事業はキャリア間の競争激化の影響を受け減益。
- 食料(前期比 ▲11億円)**
 畜産事業が好調。食品事業は販売価格への円安転嫁が進まず減益。一方、穀物事業中心に為替差益が営業外損益に18億円含まれており部門全体の経常利益段階では増益。
- 鉄鋼・素材・プラント(前期比 +30億円)**
 前期に買収した油井管加工事業や石油製品取引が好調。消費税増税前の駆け込み需要から工作機械・産業機械取引も好調。
- 車両・航空(前期比 ±0億円)**
 航空機部品、北米向け二輪車・四輪車用部品取引が好調。アジア向け建設機械関連取引は低調。

収益の積上げや円安傾向などにより自己資本・ネットDERが順調に改善。

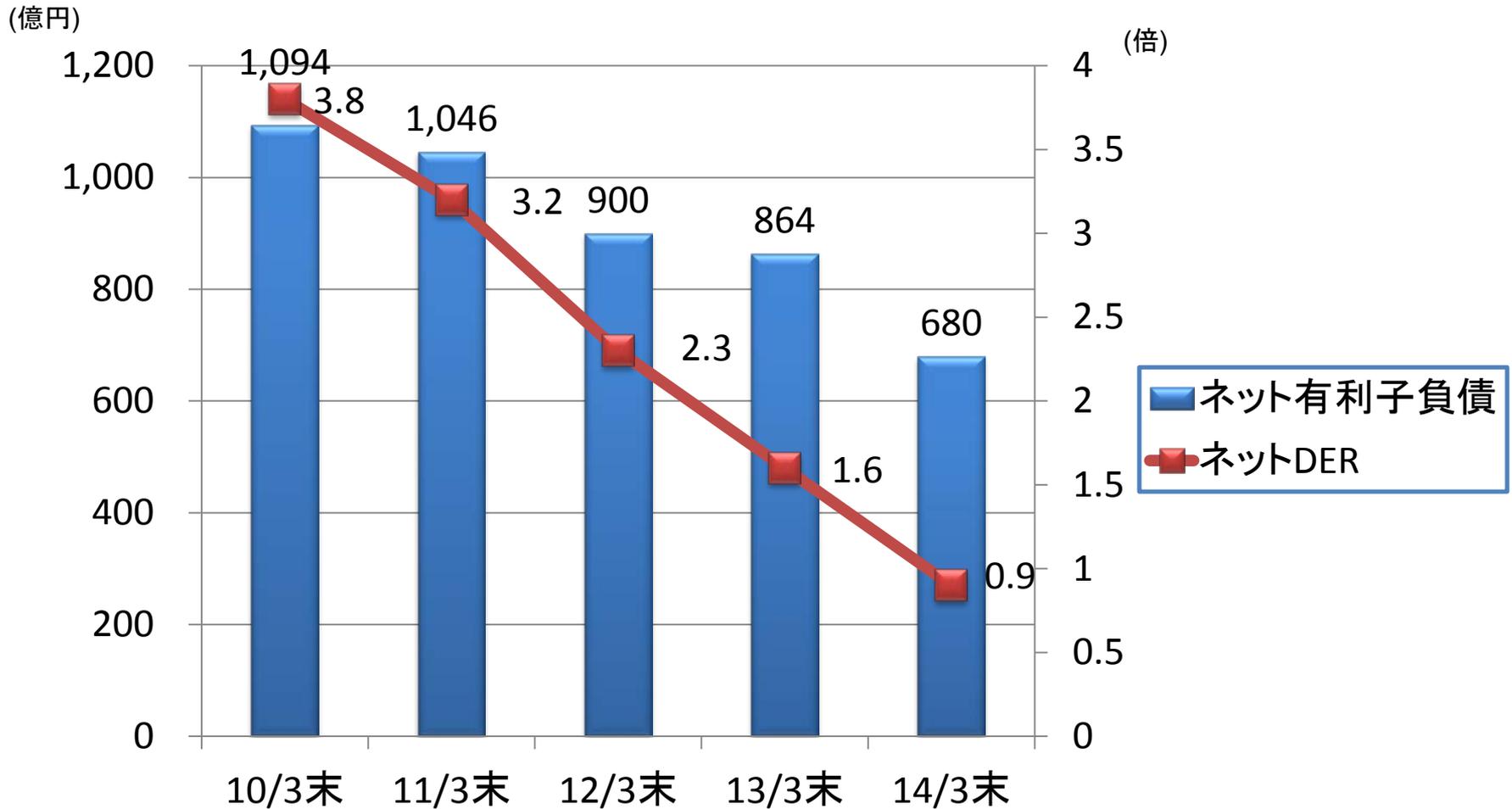
(億円)	2013年 3月末	2014年 3月末	増減額	増減率
総資産	3,992	4,285	293	7.3%
純資産	759	962	203	26.7%
自己資本(注1)	545	717	171	31.4%
自己資本比率(注2)	13.7%	16.7%	3.0%改善	-
グロス有利子負債	1,469	1,419	▲50	-3.4%
ネット有利子負債	864	680	▲184	-21.3%
ネットDER(注3)	1.6倍	0.9倍	0.7pt改善	-

注1: 自己資本 = 純資産 - 少数株主持分、注2: 自己資本比率 = 自己資本 / 総資産

注3: ネットDER = ネット有利子負債 / 自己資本

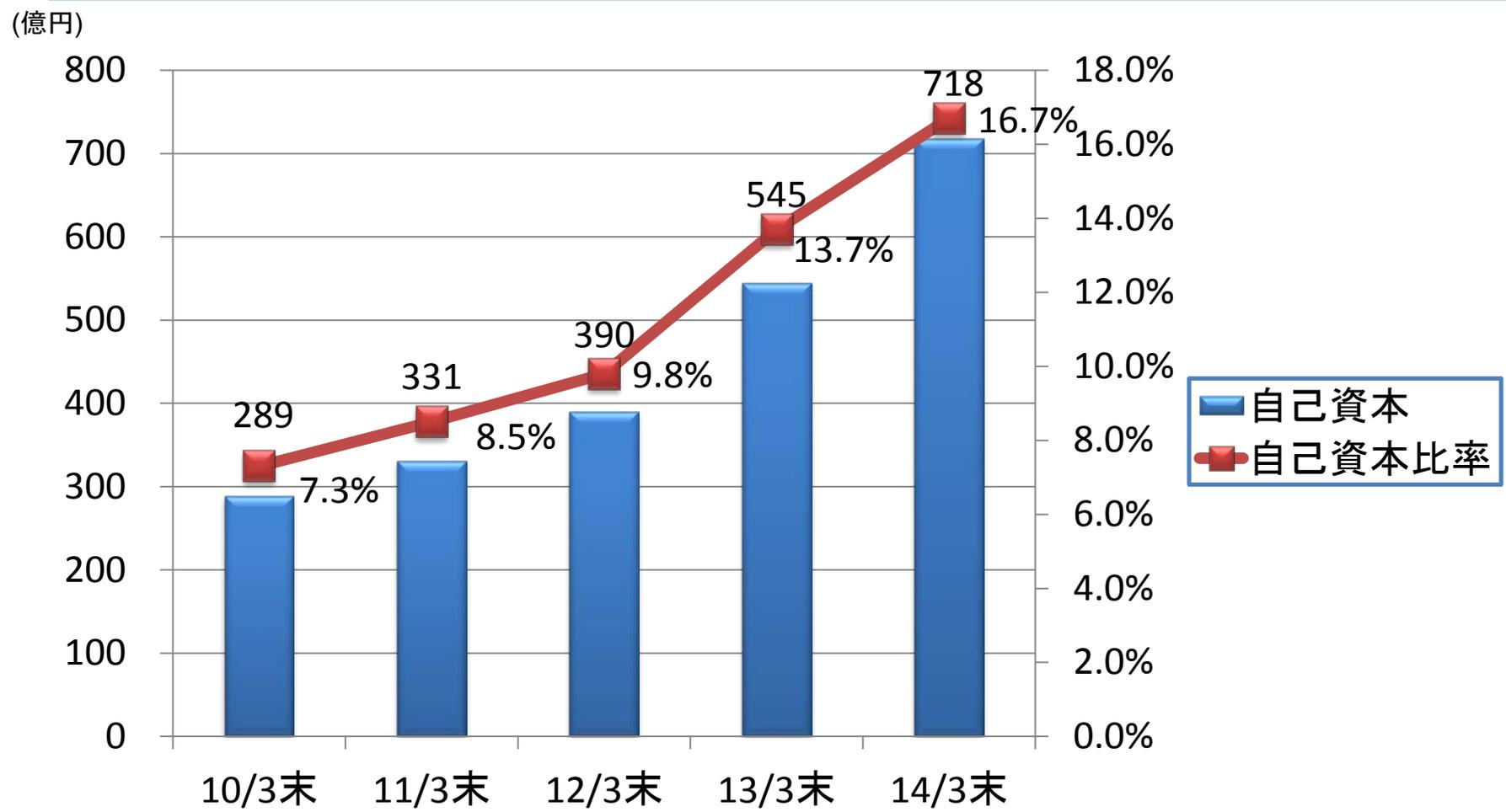
ネット有利子負債とネットDER推移

ネットDERは1倍を切る水準。中計最終年度目標を達成。



自己資本と自己資本比率推移

当期純利益による利益剰余金の積上げなどにより財務体質は大幅に改善。



2015年3月期見通し P/L

(単位: 億円)	14/3月期 実績	15/3月期 見通し	前期比増減	増減率
売上高	11,145	11,500	355	3.2%
売上総利益	864	885	21	2.4%
営業利益	198	220	22	11.1%
経常利益	202	205	3	1.5%
当期純利益	118	110	▲8	-6.8%
1株当たり 当期純利益	28円09銭	26円19銭	▲1円90銭	-
1株当たり 配当金	3円	4円 (内、記念配当1円)	1円	-

2015年3月期見通し セグメント別

(億円)	2014年3月期	2015年3月期	増減額	増減率
	通期実績	通期見通し		
売上高(外部売上高)	11,145	11,500	355	3%
電子・デバイス	2,773	2,900	127	5%
食料	3,090	3,250	160	5%
鉄鋼・素材・プラント	4,688	4,700	12	0%
車両・航空	545	630	85	16%
その他(含む調整額)	49	20	▲ 29	-59%
営業利益	198	220	22	11%
電子・デバイス	78	82	4	6%
食料	21	43	22	105%
鉄鋼・素材・プラント	81	80	▲ 1	-1%
車両・航空	15	15	0	0%
その他(含む調整額)	3	0	▲ 3	-100%

2

中期経営計画の進捗

中期経営計画(2013/4～2016/3)の進捗

重点施策

(1) 時代のニーズを先取りする
グローバルバリューチェーン
の強化

(2) グループ力の結集と相互
連携、資源の有効配分による
連結収益力の向上

(3) 経済環境に左右されない
盤石な財務基盤の構築

(4) グローバルな
プロフェッショナルの育成

(5) 復配と継続的配当の実現

重点施策
の具現化

グローバル展開、グループ連携による事業を拡大中。

Ex: カネモリー案件、北米油井管加工事業・携帯電話販売会社買収

財務状況は着実に改善。

自己資本比率: 16.7%

ネットDER: 0.9倍

(中計の定量目標達成)

海外店ナショナルスタッフの

東京本社での受入など

海外人材の活用。

トレーニー、駐在員の海外派遣増。

2014年3月期中間配当より復配。

2015・2016年3月期 定量見通し

2014/3月期で当初の中計最終年度目標を概ね達成したことから上方修正。

	2014/3月期 実績	上方修正後(4/7公表)		<ご参考> 2016/3月期 当初計画
		2015/3月期	2016/3月期	
売上高	11,145	11,500	12,000	11,500
売上総利益	864	885	930	920
営業利益	198	220	230	220
経常利益	202	205	220	200
当期純利益	118	110	120	100
連結ネットDER	0.9	1倍台	1倍台	1倍台



3

VISION-130

VISION-130 ①

VISION-130 ~「兼松の挑戦」
 (2014年4月 ~ 2019年3月)

VISION-130の基本的な考え方

- ◆ 兼松グループの創業130周年に向けて目指すべき姿として、商社の原点、兼松の基本理念に立ち返り、「健全な財務体質の維持」及び、これまでのトレーディングを基盤としたお取引先との共生・発展による「収益基盤の拡大」を経営目標とする。
- ◆ 経営基盤の充実に取組んだうえで、強みとする事業領域の深化、事業創造としての新規投資などへの「チャレンジ」を通じて、企業価値向上を目指す。

経営目標

「健全な財務体質の維持」と「収益基盤の拡大」の両立

VISION-130 ②

VISION-130 ~「兼松の挑戦」 (2014年4月 ~ 2019年3月)

基本方針の維持	トレーディングの重視	効率経営の推進	お取引先との共生・発展
経営基盤の充実	投資リスク管理の高度化	ガバナンスの強化	グローバル人材の育成
新たな挑戦	グローバルバリューチェーンの構築	新技術・新商品の開拓	積極的な事業投資・M&A、資本市場からの調達

VISION-130 ~「兼松の挑戦」 (2014年4月 ~ 2019年3月)

ありたい姿 (Aspiration)	「事業創造にチャレンジし続ける企業」	
	【定量目標】	連結経常利益 250~300億円
		連結当期純利益 150億円 (ROE 15%)
		自己資本 1,000億円超 (ネットDER 1.0倍台維持)
【定性目標】	利益水準に見合った配当の実施	

VISION-130～主要重点分野～

◆「強み」を有する主要重点分野として以下の6分野を定める。

分野	主な地域	内容
① ICTソリューション	日本・アジア	システム事業の拡大と、サービス・サポート事業の効率化
② モバイル	日本	M&A等による規模の拡大
③ アジアの食市場	アジア	提案・製造・供給ワンストップ展開と、バリューチェーンインフラの構築
④ 北米シェール市場	北米	油井管等、製造・加工・販売バリューチェーンのさらなる拡大
⑤ グローバル・モータリゼーション	北米・新興国	グローバル自動車市場でのソーシング・技術開発・ロジスティクス強化
⑥ 日系メーカー等の海外進出	北米・新興国	日系メーカー海外進出での協業、海外進出支援

①ICTソリューション

KEL Kanematsu Electronics Ltd.

お客様目線で最適なITインフラをご提供

ITインフラにおける設計・構築、導入、保守・運用サービスまでワンストップでご提供します

兼松エレクトロニクス(株)

日本オフィス・システム(株)

ITライフサイクル全般にわたるサービス、
アプリケーションの開発からシステム機器
およびソフトウェアの販売・運用・支援サービス、
ならびに保守サービス等

ケー・イー・エルテクニカルサービス(株)

通信機器、計測機器、情報処理機器
およびコンピュータソフトウェアの輸出入、
売買、賃貸、保守、開発、製造

グローバル市場での
事業展開も推進



②モバイル

KCS Kanematsu Communications



Mobile & Communication Innovator

移動体通信とネットワークに関連するあらゆるサービスを提案

兼松コミュニケーションズ(株)

移動体通信機器販売ビジネス

NTTドコモ、KDDI/au、SoftBank、WillCom、EMobile
などの全キャリアの販売代理店
全国規模での携帯電話並びに関連機器の販売

法人モバイル関連ビジネス (モバイル・インテグレーター)

企業法人、団体などを対象とした
モバイルASPサービス
モバイル系サービス・ビジネス

主要子会社

兼松グランクス(株)



情報コンテンツ・サービス
モバイル広告、モバイルビジネス基盤サービス
スマートフォン対応の新規ビジネス



兼松通商貿(上海)有限公司

中国上海を中心とする
携帯電話販売関連ビジネス

③アジアの食市場

アジアの食文化発展に合わせた提案・製造・供給体制の構築

カネモリー(Kanemory)工場完成予定図



インドネシアでのカネモリー工場建設

- ハラル対応の外食・中食向け惣菜・材料提供やメニュー提案を手掛ける
- 今夏工場稼動予定。量産体制整う。

ベトナムのダラットミルクに出資

- ハイエンド市場対応の乳質・乳量アップを目指した飼料作り、飼育方法の提案や研修を行う
- TMRセンター(配合飼料工場)を2015年稼動目指し準備中

⇒ 今後もアジアにおける食文化の発展に合わせて仕組み・プラットフォーム作りを拡大

ダラットミルク(Dalat Milk)



④北米シェール市場

**シェールガス・オイル市場の拡大を鑑み、
北米にて油井管加工事業設備の拡大を予定**
現状、フル稼働生産中。設備増強も視野に入れる。

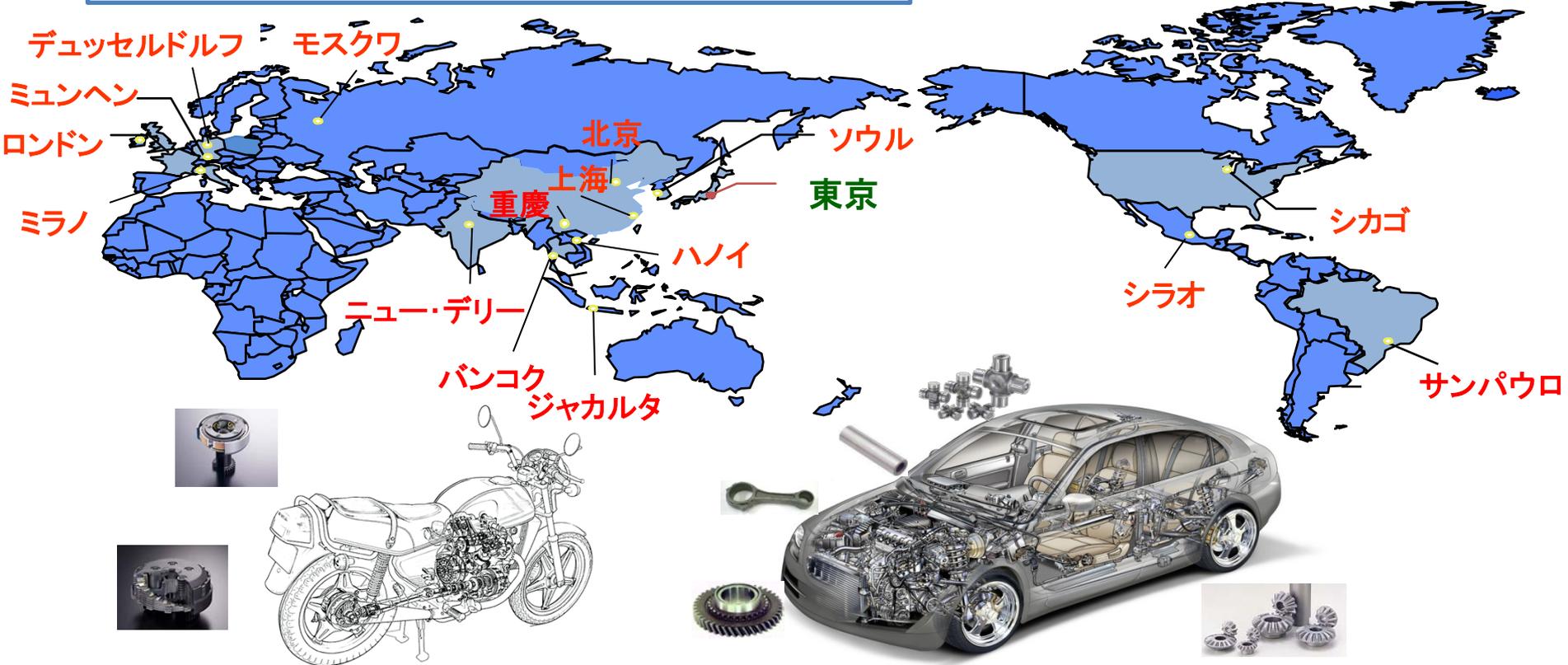


- ・接続容易
- ・作業時間
効率化
- ・腐食に強い

Benoit工場
(米国ルイジアナ州)



⑤グローバル・モータリゼーション



グローバルな販売力、ソーシング力を駆使して、世界中の二輪、四輪メーカーから需要を掘り起こし、開発のお手伝いをして、部品をジャストインタイムで納入。

⑥ 日系メーカー等の海外進出

拠点網、情報力を生かし、日本の良いものを共に海外へ

P.T. Yachiyo Trimitra Indonesia



PT. Mizushima Metal Works Indonesiaの工場内

自動車部品などを製造する八千代工業(株)や水島プレス工業(株)のインドネシア進出を支援。インドネシアにおける戦略パートナーにも参画してもらい、工場用地の提供や会社設立における法務・労務のアドバイザーなど、サポート体制を構築。原材料・部品の調達、販売支援も行う。

グループ会社の(株)兼松ケージーケイ、兼松エレクトロニクス(株)との協業を行う。

食料分野を中心に、あおぞら銀行とのビジネスサポートを通じた取組みも進行中。



4

Appendix

兼松グループの事業概要

事業セグメント	主要な事業	主要取扱商品	主要グループ会社
電子・デバイス	半導体部品・装置	半導体・液晶パネル及び製造装置、電子モジュール・部材	兼松エレクトロニクス 兼松コミュニケーションズ 日本オフィス・システム
	電子機器・電子材料	プリンター及び関連機器、リチウムイオン電池制御用モジュール	
	ICT・モバイル	情報・通信関連機器及びサービス、携帯通信端末、モバイルインターネットシステムサービス	
食料	食品	缶詰・冷凍・ドライフルーツ、コーヒー、ココア、砂糖、胡麻、落花生、雑豆、ワイン、加工食品	兼松新東亜食品 兼松アグリテック 兼松ソイテック
	畜水産	畜産物、水産物	
	穀物・飼肥料・ペット用製品	小麦、大麦、米、コーン、大豆、小麦加工食品、飼料、牧草、肥料、ペットフード、ペット用品	
鉄鋼・素材 ・プラント	鉄鋼貿易	各種処理鋼板、シームレスパイプ	SSOT 兼松トレーディング 兼松ペトロ 兼松ケミカル 兼松ウェルネス 兼松ケージーケイ
	特殊鋼貿易	ステンレス、特殊鋼線材・条鋼	
	国内鉄鋼・鉄鋼原料	鉄鋼製品全般、鉄鉱石、コークス	
	原油・石油製品・ガス	原油、石油製品、LPG、排出権ビジネス	
	機能性化学品、ライフサイエンス	リチウム電池原料、太陽電池関連部材、医薬品・医薬中間体、機能性食品素材、栄養補助食品	
	プラント・船舶	各種プラント、ODA案件、光ファイバー、電力・通信プロジェクト、船舶、船舶用機材	
	工作機械・産業機械	工作機械、産業機械	
車両・航空	車両・車載部品	二輪車、四輪車、車載部品、鋳鍛造部品、建設機械	兼松エアロスペース 新東亜交易
	航空宇宙	航空機・ヘリコプター及び部品、衛星・宇宙関連製品	

関係会社および従業員の状況

1. 主要連結対象会社の売上高

(億円)	事業	持分比率	2013年3月期	2014年3月期	増減額
兼松エレクトロニクス	ICTソリューション	58.28%	451	639	188
兼松コミュニケーションズ	モバイル	100%	1,212	1,369	157
兼松新東亜食品	食品・畜水産	100%	231	262	30
兼松アグリテック	飼料酪農	100%	125	146	21
兼松トレーディング	国内鉄鋼・鉄鋼原料	100%	384	416	32
兼松ケージーケイ	工作機械・産業機械	97.90%	392	435	44
兼松ペトロ	石油製品・ガス	100%	1,484	1,686	202
兼松ケミカル	機能性化学品	100%	184	191	7
新東亜交易	商社	100%	984	1,008	24
兼松エアロスペース	航空機・防衛機器	100%	39	39	0
Kanematsu USA Inc.	海外現地法人	100%	944	991	47

2. 従業員の状況

(人)	2013年3月末	2014年3月末	増減
単体	782	800	18
連結子会社	4,740	4,947	207
合計	5,522	5,747	225

※従業員は就業人員数

(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む)

関係会社の状況

1. 連結会社の黒字・赤字会社数推移状況

(単位:社)

(社数)	2013年3月期					2014年3月期					前年同期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字会社	31	36	8	10	85	27	29	10	12	78	-7
黒字比率	84%	80%	67%	77%	79%	77%	62%	83%	92%	73%	-7%
赤字会社	6	9	4	3	22	8	18	2	1	29	7
合計	37	45	12	13	107	35	47	12	13	107	0

2. 連結会社の黒字・赤字額推移状況 (連結調整を加味しない単純合算ベース)

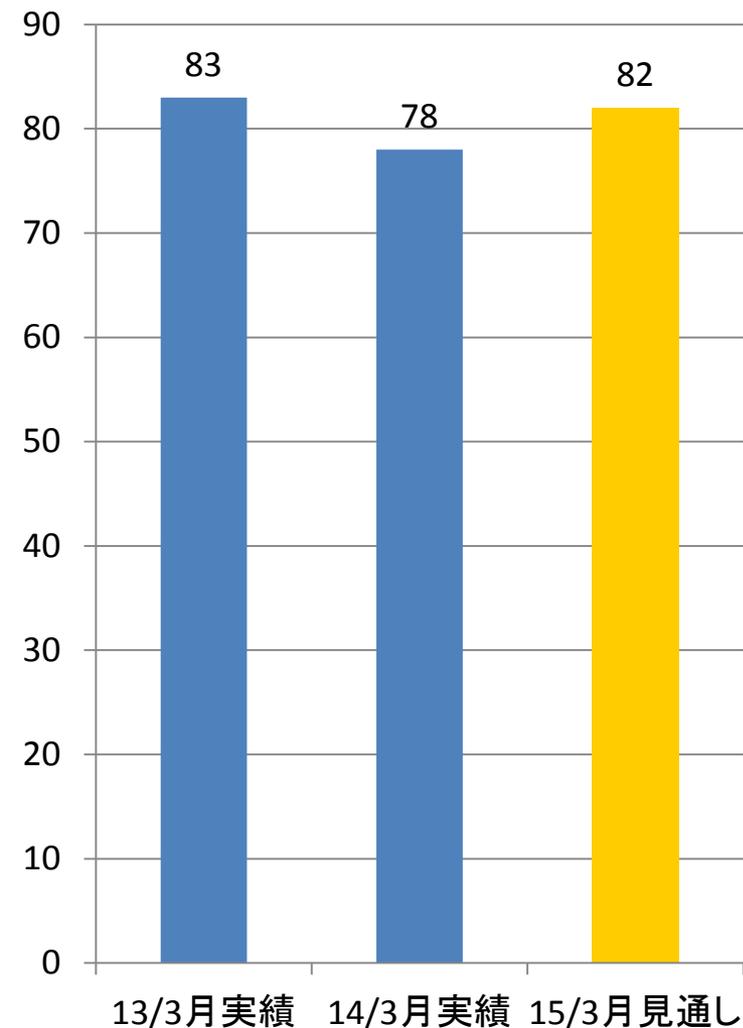
(単位:億円)

(億円)	2013年3月期					2014年3月期					前年同期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字額	82	16	3	1	102	58	22	6	2	88	-14
赤字額	-7	-1	-1	-2	-10	0	-7	0	0	-7	3
合計	75	15	2	-0	92	58	15	5	2	81	-11

5

補足資料

営業利益：億円



(億円)	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 見通し
売上高	2,368	2,773	2,900
売上総利益	391	423	427
営業利益	83	78	82

2014/3月実績のポイント

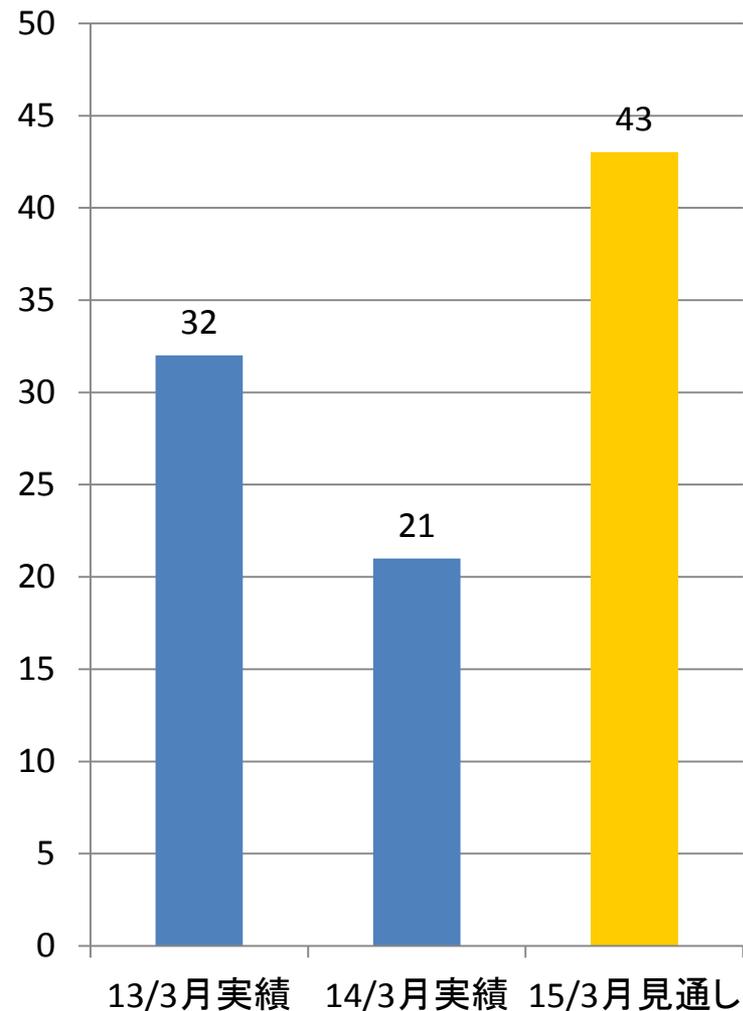
電子機器・材料事業は輸出取引を中心に堅調に推移、半導体関連事業は国内における部品の需要が伸長。モバイルソリューション事業はキャリア間の競争激化の影響を受け営業利益が減少。

2015/3月見通し

半導体装置事業が市況回復に合わせ、堅調に推移する見通し。モバイルソリューション事業はキャリア間の競争が引き続き続くものと見込まれる。

2014年3月期 通期実績・来期見通し(食料)

営業利益：億円



(億円)	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 見通し
売上高	2,879	3,090	3,250
売上総利益	120	117	141
営業利益	32	21	43

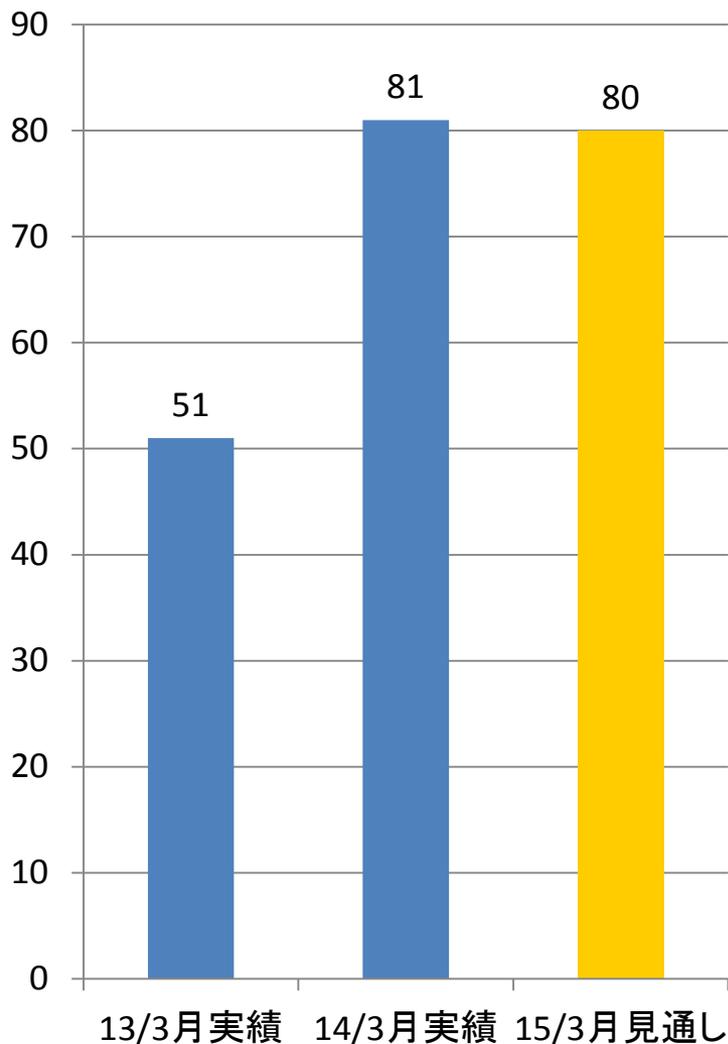
2014/3月実績のポイント

畜産事業が好調。食品事業は販売価格への円安転嫁が進まず減益。一方、穀物事業中心に為替差益が営業外損益に18億円含まれており部門全体の経常利益段階では増益。

2015/3月見通し

取扱量は全般的に堅調に推移する見通し。前期の円安進行による為替差益(営業外収益)が営業利益となり大幅増益を見込む。

営業利益：億円



(億円)	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 見通し
売上高	4,342	4,688	4,700
売上総利益	211	248	245
営業利益	51	81	80

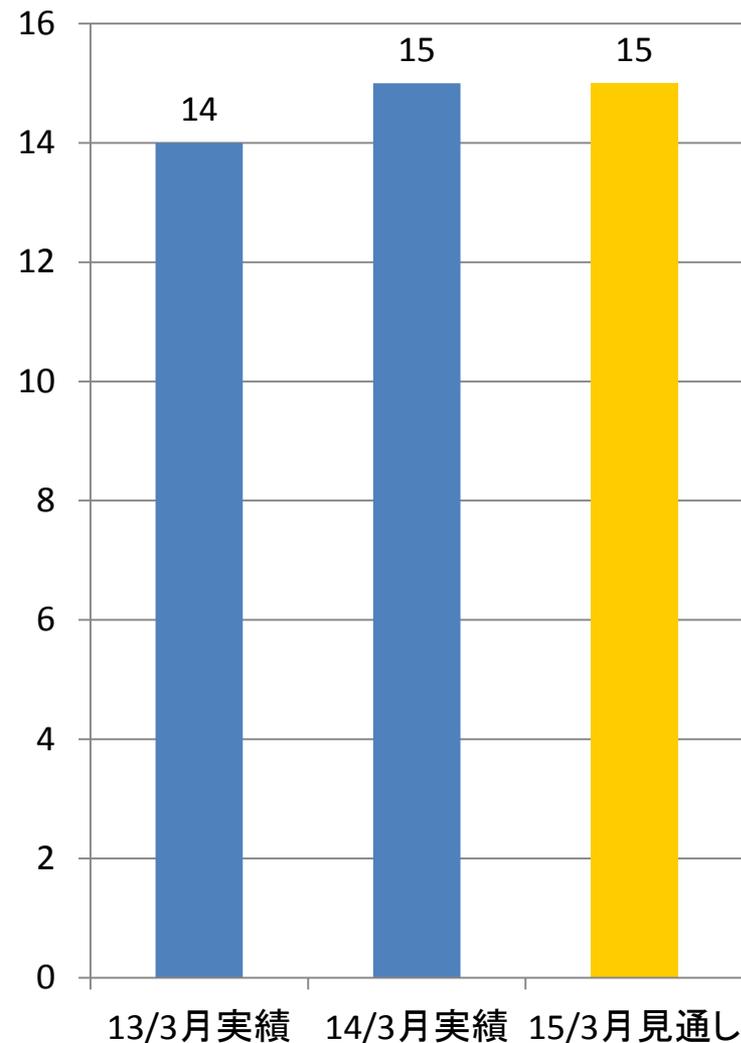
2014/3月実績のポイント

欧米向けの自動車用特殊鋼取引や北米での油井管加工事業が堅調。エネルギー事業では石油製品の販売が好調。プラントインフラ事業では工作機械・産業機械取引が消費税増税前の駆け込み需要で順調。

2015/3月見通し

石油製品の販売量は鈍化する見通し。プラント・船舶関連取引は堅調に推移する見通し。油井管加工事業はフル稼働生産中。

営業利益：億円



(億円)	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 見通し
売上高	507	545	630
売上総利益	58	62	62
営業利益	14	15	15

2014/3月実績のポイント

航空機部品は堅調に推移。北米向けの二輪車・四輪車用部品も順調に推移。アジア向け建設機械関連は低調。

2015/3月見通し

航空機部品は生産終了品の駆け込み需要の反動で低調の見通し。二輪車・四輪車用部品は引き続き堅調に推移する見通し。

見通しに関する注意事項

本説明会・資料における当社グループの今後の計画・見通し・戦略等、将来に関する記載は、当社が現時点において把握可能な情報をもとに判断したものであり、これらは様々なリスクや不確実性が内在しております。従って、経営環境の変化、未知のリスクの顕在化、およびその他様々な要因により、実際の業績等の結果は大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

なお、表示の数値は、億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。